

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



特集 「関ブロ大会本番写真で見るドキュメント」

4.5

2 トピックス 〈関ブロ本番・準備〉

3 視点 「公民館の力」 新潟県下越教育事務所・甲斐 浩之

3 ひろば 「世代交代と若返りの術」 魚沼市社会教育委員・坂本 恭一

6 実践記録シリーズ 「《秘話》平成24年度巻地区長寿大学ここだけの話」 新潟市・巻地区公民館

7 サークル交流 「"幸せの共有"」(三条市) / 「郷土史研究 一愛郷心にも連なりて」(見附市)

7 素顔拝見 大坪 美樹さん(上越市) / 山田 悦子さん(魚沼市)

8 お元気ですか 聖籠町・伊藤サチ子さん

8 県大会開催 大会エピソード



「公民館文月こんさーと」(胎内市)

表紙解説

7月5日(金)、音楽活動を行う団体の皆さんが参加し、「公民館文月こんさーと」が開催されました。今年で12回目を迎えました。

〈関ブロ本番・準備〉

関ブロ開催を翌日に控え、南魚沼市、湯沢町、長岡市、事務局の20名が大会本番に向けた準備を行いました。
8月28日(水)午後1時30分から南魚沼市民会館で大会の前日準備を行いました。



〈大会紀要等袋詰め作業〉



当日の受付で参加者に配布する資料は1,100部。大会紀要の他、観光パンフ

レットなどを全員で袋詰め。思った以上に時間がかかりました。
ステージでは国旗、大会旗の貼り付け・取り付け作業も行われました。県旗は事務局で所蔵していないことが直前まで不明で、急遽、県から借用するというハプニング。準備作業に何とか間に合いました。



〈正面玄関案内看板調整〉



〈旗のバランスを調整〉



〈運営の要 佐藤部長〉

大会当日は、午前9時に開始と当日準備があり大会2日目の分科会担当者の一部を除いて約150名の運営委員が集まりました。
湯浅大会会長の挨拶後、佐藤総務部長の作業説明があり、各運営部が詳細な業務打合せを行いました。

〈大会当日準備〉

作業終了後、司会者の平井菓子さんをまじえ、開会行事を中心にリハーサルを行いました。
挨拶者の所作タイミング、表彰式の出入りと所作、補助者の位置、それぞれの立ち位置、緞帳上げ下げなどのリハーサルと確認をしました。確認事項や修正が多く夕方近くまで時間がかかりました。



〈正面玄関に看板設置〉



〈開始式の模様〉



〈受付所設営〉



〈演台脇の生花準備〉

手際良く準備が終了して予定どおり11時から県大会の幕が上がりました。大会本番は4〜5ページの特集をご覧ください。



〈受付所設営〉

視点

公民館の力

新潟県下越教育事務所 甲斐 浩之



文部科学省の「社会教育調査」によれば平成11年度以降、公民館の数は少しずつですが減少してきています。新潟県も同様で、正規職員の減少に伴い、首長部局のコミュニティセンターへの転用や、施設を住民に開放して自主運営を支援する方策等を検討する市町村が見られます。また、ボランティア養成等の人材の発掘、育成は関係各課で多岐にわたり実施され、公民館の役割が薄らいできているように感じます。

しかしながら、それらの取組には連携が不足しているため、役員や講座の重複、学習者の活躍の場の不足等の課題も多く、市町村が求める「絆づくり」「コミュニティの再生」には結びつけることが難しいように感じます。

これからは、公民館の「むすぶ力」「コーディネート機能」が重視されます。人材を活かす、学びを活かす仕組みづくりについて、広く情報を収集し提供するなど、人と人、情報と人を結びつけ連携を促すことにより、地域に合った新たな学びのスタイルが公民館の機能で構築されることを期待しています。

H O T N E W S

掲 示 板

全国公民館大会開催案内

「第35回全国公民館研究集会 in ふらの北海道」が下記により開催されます。

- 1 テーマ「地域を育む公民館活動」
～コミュニティづくりに求められる公民館のあり方～
- 2 開催期日
平成25年10月17日(木)～18日(金)
- 3 会場
1日目 富良野文化会館
2日目 富良野文化会館他4館
- 4 主催
全国公民館連合会 北海道公民館協会
- 5 内容
1日目 記念講演
倉本 聡 (脚本家)
2日目 スーパー塾 5部門
(塾長: 吉田 博彦、佐藤 勇一、出口 寿久、坪田 知広、讃岐 和浩)
* 7月上旬に各市町村に開催案内を送付してあります。
8月末現在、県公連事務局に参加申し込みがありませんでした。再度、確認をお願いします。

ひろば

「世代交代と若返りの術」

魚沼市社会教育委員 坂本 恭一

団塊の世代もいよいよ前期高齢者の仲間入りで、他人事ではなく私自身も高齢者と言われるようになってしまった。確かに足腰の衰えは自覚せざるを得ない昨今ではあるが...

しかし普段の生活では、子ども達との自然体験やキャンプ、2年目になるが大学生たちと過疎集落のお年寄りの支援など若い人たちとの接触が多いせいも、気分はいたって若者気分を保っているつもり。

特に大学生との交流を通して感じることは将来の仕事に対する考えが多様化していることに驚いている。それは定期的に集落の支援に来る学生達が、過疎集落を持続できるような社会的な仕事をしたいとか、最近も某国立大学の4年生で国際関係論を勉強し、来年は超一流の〇〇物産に就職が決まっているながら、都市部と

地方の格差を社会的課題ととらえ、せひ実態を知る事と課題解決について勉強したいとのことで我々NPOにインターンシップで半年間OJTをする事となった。このような学生達が未だ少数ではあるうがしかし確実に増えている事を実感している。それと共に我々高齢者と言われながらも、このような若者に伝えるべき事は多々あり、一緒に活動できる事は脳を鍛え、体も動かし若返るにはうってつけの環境にある事が嬉しいと共に将来の日本も捨てたものではない事を実感する昨今である。



写真で見るドキュメント

- 7 内城 秀典 (長野) 8 丸山とみ子 (山梨)
- 9 平山 義重 (山梨) 10 手塚 信男 (山梨)
- 11 斎藤 雅子 (埼玉)

〈功労者〉

- 1 武田 登 (長野) 2 酒井 重雄 (長野)
- 3 小越寿々務 (山梨) 4 中島 謙造 (静岡)

当日は以上の方々の中から7名が出席し、一人ずつステージ上で表彰されました。受賞者には賞状と記念バッジが贈られました。

*

続いて、本大会の目玉プログラム「朗読劇」と「講演」が行われました。

朗読劇は、上越市の現役社会教育委員・公民館運営審議会委員15名の皆さんによるもので、委員の活動と現状を劇風にして述べ鋭い視点で課題を指摘しました。以下は出演中の熱演の様です。



主演?の「さとみ」さん



グループ代表 秋山三枝子さん

裏方として上越市職員の吉田係長も映像、音響に活躍していました。

*

朗読劇を受けて新潟大学・雲尾准教授が解説と講演を行いました。



難しい課題提示に解説の熱弁をふるう雲尾講師

兼任委員制度が発足した法律とその背景。今後の公民館振興の対策最前線は「多機能化」であると解説しました。

講演終了後、会場の皆さんと質疑応答がありました。主に講座の展開方法や施設の多機能化について質問が集中し、時間切れまで続きました。



*



埼玉県・野口会長と宮崎副会長

*

来月号、レセプション・分科会のレポートに続く。

特集

「関」プロ大会本番



事務局長
田原 理

8月29日(木)、30日(金)に南魚沼市、湯沢町で開催された第54回関東甲信越静公民館研究大会・新潟大会の模様を写真を中心に紹介します。

参加者は、一般886名。役員、受賞者、来賓を含めた総数は921名でした。他に、関係者として、朗読劇出演者、アトラクション出演者、コーラスの皆さんがいましたからそれらをすべて含めると1,000名を超えたことになります。

本稿では、大会本番の模様を写真とともに紹介します。



29日(木)朝一番の駐車場案内係役員は全員、スタッフ用ポロシャツを着用しました。



道路案内係3人組 定位置に向かうところです。



午前11時半。県外参加者の受付開始。



12:10 アトラクション「御実城太鼓」「剣舞」

地元の保存会の皆さんが見事な演奏、舞を披露して拍手大喝采を受けました。

大会の開会行事は、2つのアトラクションに続いてほぼ予定どおりにスタートしました。

「公民館の歌」斉唱では地元のコーラスグループがステージに立ち指揮者、ピアノ伴奏者とともに

に会場の皆さんをリードしました。



コーラス「ひまわり」と指揮者鈴木規子さん

続いて、1あいさつ 2祝辞 3歓迎のことは 4表彰等の式典がスタートしました。



左：湯浅康夫大会会長の「主催者あいさつ」

右：全公連・神崎副会長のあいさつ。会長が同日開催の九州プロ大会に出席のため代理出席になりました。



左：来賓を代表して新潟県・高井教育長の祝辞。県教育委員会開会中でしたが、駆けつけていただきました。

右：南魚沼市・井口市長が歓迎のことはを述べました。



全国公民館表彰。写真は功勞者表彰。

全国公民館表彰の受賞者は下記のとおりでした。(敬称略)

〈優良職員〉

- 1 池田 真規 (栃木)
- 2 藤原 直樹 (群馬)
- 3 内海 和夫 (千葉)
- 4 澤田 寛 (埼玉)

〈永年勤続職員〉

- 1 齋藤 征夫 (茨城)
- 2 古谷野幸子 (茨城)
- 3 薄井 俊夫 (栃木)
- 4 別府 誠 (千葉)
- 5 木村 澄子 (埼玉)
- 6 夏井 美幸 (神奈川)

実践記録 186 シリーズ

《秘話》平成24年度巻地区長寿大学ここだけの話

巻地区公民館

I. はじまり、はじまり～

この秘話は昨年度58歳で生まれて初めて公民館職員となり、1年間悪戦苦闘した事業の中の『長寿大学』について赤裸々な真実を「ここだけの話」としてつぶやいた記録である。

公民館職員の使命とは何ぞやと思いながら、何をどうすればとボーっとしているうちに長寿大学の事業メニューを決める時期を1ヶ月もオーバーしてしまった。まずは、1回目の学習会をどうすれば…。

長寿大学(巻地区管轄の学生数は、男58人、女160人、合計218人)は平成の市町村合併前から続いている高齢者から人気の事業。担当者が代わってつまらなくなると言われないうちに、しかも役に立つものでなくてはならないというプレッシャーが私を優鬱にする。

とりあえず、ここは私の手駒で何とか。ということで嫁の手を借りることにした。嫁は市の職員で自殺対策の部署にあり、自殺を減らす方法はこうしたらとか、多くの市民に実状を理解して欲しいのだがとか、自宅で一杯飲んでいるときは職務が頭から離れない仕事人間で、講演の機会を与えれば猫じゃらしに反応する猫のように喜んで飛びつくはず。

決めた。第1回は新潟市が頭を痛めている重要な課題である『自殺対策』をテーマに、8月29日(休)に開催する。



II. 講演『きづく つながる 命を守る』

～安心して悩むことのできる地域社会をめざして

自殺という単語はかなりきついのでこのような標題にして参加者を募り、91人の受講になった。

自分には直接関係ないと思っていた人も、働き盛りの男性が危ないとか、ストレスが原因となって様々な病気を招くとか、うつ病の具体的な症例を聞くと「うーん、なるほど」とうなずき、自殺はあんがい身近な問題なんだと認識を新たにしようだ。

講師は合併前に巻地区の保健師として各地域を飛び回っていたので、参加者とは顔見知りが多く、講演後は「おめさん、達者かね」「年取ったね」「元気にしてるかね」「変らねね」「肥えたね」などとロビー談話に花が咲いていた。

無事1回目の学習会が終わり、次はバスに乗っての野外研修だ。さて、どうしようか。主だった見学先は皆さんすでに体験済みであり、役に立つ野外研修先はいずこに…。

ここで朗報が飛び込む。中越地震から8年になることから、災害に対する風化を防ぎ未来に繋げることを主眼とした、中越地域の被災地や防災施設を巡る企画が旅行会社から提案されたのだ。

これだ、これしかない。9月27日(休)中越方面への野外研修を決定する。

III. 野外研修『中越メモリアル回廊』

平成16年に発生した中越地震に関わる拠点を巡り、震災の記憶と復興の軌跡に触れ、大災害の風化を防ぎ、もしもの危機に備える心構えを育てるということで、参加を呼び掛けた



ところ大型バス2台の定員ギリギリの85人の申込みとなった。

① 木籠(こごも)メモリアルパーク(長岡市山古志木籠地先)…地震により発生した土砂ダムで住宅が水没した木籠集落の現場を訪れる。水没家屋が撤去されず、そのまま朽ちていく様子を目の当たりにし、参加者は固唾を飲んでた。



② おぢや震災ミュージアムそなえ館(小千谷市上ノ山)…地震再現装置「地震動シミュレーター」により、震度7を体験した人は「わー」「ひー」「おこ」「おーごころ」と巻弁丸出しで驚愕の悲鳴をあげていた。

③ アオーレ長岡(長岡市大手通1丁目)…省略

④ 長岡震災アーカイブスセンターきおくみらい(長岡市大手通2丁目)…広い部屋の床一面に中越地方の高密度な航空写真が敷かれ、その上をタブレット型多機能端末を手にした来場者がここぞというところにポイントを合わせると、端末画面にその地域の被害や復興状況が映し出されるというハイテクな仕組みになっていた。

その中で、ITとは縁遠いはずのお年寄りが、臆することもなくタブレット型端末を使いこなす姿が印象的であった。日本の高齢者は元気だ。未来は明るい。

(ここで残り誌面が少なくなってきたので、いくつか省略)

ところで、私には春から何となく胸に留めていた企画が一つあった。それは『笑いの健康法 笑い ヨガ』はどうだろうか、というもの。

きっかけは、嫁の「NHKラジオの朝の随想で『笑いヨガ』という面白い話をしているよ。」という一言。『笑いヨガ』といえば1月と3月の新聞で記事を目にしたことがあった。これはいいかも予感。しかも7月の県社協の情報誌に2ページにわたるインタビュー記事も発見し、まるで神様がこれをやるべしと後押ししているみたい。やるっきゃないでしょう、ということで11月26日(休)に開催する第3回学習会の事業と決定した。

IV. 笑いの健康法 奇跡の『笑いヨガ』



早速、8月にメールで主宰者である上越教育大学准教授の田島弘司さんにコンタクトを開始。5、6回のメール交換を行い、笑いヨガの本を購入し、朝の随想を聞き、10月には上越市へ出向いて実際の笑いヨガ教室を見学した。

これは面白い。田島先生の話術も冴えわたり、巻の長寿大学でも大いに受けること間違いなし。新しい健康法を私たちは手に入れたのだ。

ここでまた、ひとつのエピソードが…。残念。まだまだ秘話はあるのだが、誌面が尽きてしまった。続きは機会があったらということで。それではサヨナラ、サヨナラ、サヨナラ。ちょっと古いか。では、じええええ、じえええええ、じえええええ。

(つぶやき人：青柳 治)

「幸せの共有」

三条中央公民館英会話サークル

三条中央公民館で、英会話サークルは、月三回開講してこまます。To live is To love. To love is to understand. の言葉のもと、世界の国々から謙虚に学び、日本の素晴らしさを発信してゆこうと、皆で楽しく活動しております。

会話の技術を磨く事も勿論大切ですが、ハートを豊かにしていなければ、良いコミュニケーションは出来ません。その為、劇の観賞、英国への旅、詩人西脇順三郎、歴史家朝河貫一への旅、昨年は、世



界の古典「源氏物語」の地、京都廬山寺を訪れ、日本文化の奥深さを、皆で再確認しました。英語を母国語としない人々を含め、出会った全ての人との幸せの共有を目標に、歩み続けて参りたいです。

三条市・三条中央公民館 英会話サークル 長屋美智子 記



郷土史研究

一愛郷心にも連なりて

見附の歴史研究会

昭和四十九年見附市史編集事業が発足したのを契機に、私たちの会は当時の「見附地方史研究会」や「見附古代史研究会」に加えて、見附の歴史に関心をお持ちの市民の方々の参加を得て、歴史学習を深

められるよう昭和五五年に発足いたしました。

そして昭和六〇年市編集事業も終了し、編集委員会発行の『見附市史研究』も終刊となったことを契機に、昭和六一年より会として『見附郷土誌』を刊行することとなりました。現在まで二二号を刊行しております。

当会は総会、公民館で毎月定例会を持ち、見附市は勿論越後や近郷の歴史を含め、研究や協議等学習を深めています。



見附市見附の歴史研究会 江田 諄 記

上越市立公民館の若手ホープ、大坪美樹さんを紹介します。

市役所で働き始めて3年目ですが、しっかりと仕事に向きあい、いつも笑顔で楽しく仕事をしています。私より年下なのですが、仕事への想いや、やり方を見て刺激を受けることが多々あり、とても頼れる存在です。

美樹さんの強みは、笑顔と真剣さ、そして人を和ませて

上越市生涯学習推進課・公民館

大坪 美樹さん



くれる雰囲気です。地域の頼れるスタッフとしてこれからも活躍されることでしょう！ぜひ地域の皆さんとともに、よりよい事業を企画・実施していきましょう。

ちなみに趣味でチェロを演奏されています。関心のある方はぜひお声がけください♪

(上越市生涯学習推進課・公民館 箕輪 香織 記)

魚沼市小出北部公民館の主事、山田悦子さんを紹介します。

昨年4月からの勤務ですが、初めての経験で最初は戸惑いの連続だったようです。前館長が体調を崩され入院されたことから、約半年間、一人で孤軍奮闘していました。

でも、持前の明るさとバイタリティで難局を乗り切り、今ではその貴重な体験を糧に活躍しています。

誰にも優しく、笑顔で声か

魚沼市小出北部公民館

主事 山田 悦子さん



ける山田さん。

講座や貸館の多い当館では、来館者の皆さまには好感度抜群です。仕事が終われば二人の高校生の母親ですが、悩みのあるときは、たまには人生相談もあります。「私って天然で、キャピキャピしているの」とは本人の弁。これからも、元気ハツラツで活躍してほしいと願っています。

(魚沼市小出北部公民館長 古田島 修 記)

素顔 拝見

県大会開催

関プロの開会に先立って第64回新潟県公民館大会が開催されました。

例年とは異なり、永年勤続者表彰と大会旗の引継(来年は新潟市開催)が主でした。

<永年勤続者表彰> (敬称略)

受賞者 遠藤 昭一(十日町市) 佐藤みどり(田上町)
山縣 信幸(新潟市) 小池恵智子(新潟市)
船山 靖子(新潟市) 山岸 綾子(見附市)

受賞者に賞状と記念品が贈られました。本年度の記念品は、南魚沼市の富岡惣一郎画伯のアルアートで、アルアートとはアルミ板に画伯の作品を描いたもので、特別に記念品として贈られました。



受賞者6名の皆さん



代表謝辞 遠藤昭一氏

お元気ですか

伊藤サチ子(聖籠町)



生涯スポーツの一つであるバウンドテニス、町職員の普及により我町は県内で発祥の地として名を残しました。

私は、20年来の愛好者で、今では週3回程やり汗を流しています。全国大会に何度か出場しましたが、現在は楽しみながら健康維持のためにやっています。

継続は力なりを信じつつ…

又、退職後念願であったパッチワーク、家庭菜園、いくつかのボランティア活動をして日々を過ごしています。

ボランティア活動の一つで最も時間を費しているのが中学校支援ボランティアです。梅干し作り、クリスマス会では中学生、障がいのある人、地域の方々と交流を図りながら活動しています。

中学生の純粋さに感動や喜びに胸が熱くなります。

しかし最近、年を重ねる毎に身体や周囲に変化が起こり寂しくなる面も多々ありますが、今は様々な面で多くの人達と交流しながら、楽しみを共有し、充実した貴重な時間を過ごすことが出来感謝の気持ちで一歩です。

※「お元気ですか」のコーナーは現役をリタイアした方がその後も元気に活動している様子を紹介するコーナーです。

大会エピソード

県大会、関プロ大会とも多くの挨拶がありました。開式、閉式のことばは県公連の3人の副会長<高橋治(新潟市)、武樋正隆(長岡市)、内山輝義(上越市)>がそれぞれ担当しました。

通常は「〇〇の開(閉)会式を行います」と簡単に宣言しますが、今大会では、3人とも開催への意気込みやおもてなしの気持ちを短時間で語るなど県内外の参加者から好評を得ました。



主管地 武樋正隆副会長の閉会のことば

農業・農村が日々の生活を支えています

農業・農村は、安全・安心な食料を安定的に供給するとともに、国土や自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承などの多面的な機能を有しています。

本県農業・農村振興の取り組みに対する県民の皆様のご理解とご協力をお願いします。

新潟県市町村農業農村振興対策協議会
会長(村上市長) 大 滝 平 正
新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館内
TEL 025(285)0041 FAX 025(285)1609

事務局長のつばやき
3年にわたって準備を進めてきた関プロ大会が終わりました。大会の成否はアンケートの結果等によりますが、私の感触では概ね良好。なにはともあれ終わって安堵しています。

レセプション会場で、3年前に準備委員会を立ち上げ、大会開催の基盤づくりに協力していただいた中越教育事務所の渡辺副参事(現長岡市立小学校長)にお会いして心からお礼を申し上げます。(田原)